

## 解説 23 学習の4本柱 —「学び」とは何か—

### 【課題のねらい】

大学に入学前は、実に多くの時間が学習に注がれてきましたし、入学後もそれまで以上に学習に取り組むことが求められます。ここでは、高校時代までは当たり前であった「学習」や「学び」という人間の行為をあえて捉え直し、大学時代の「学び」について展望することが狙いとされています。

### 【解説】

「学習の4本柱」が唱えられている図書、『学習：秘められた宝』の副題は、ラ・フォンテーヌの寓話「農夫とその子供たち」に由来します。農地の中に宝物が隠されているという遺言と共にこの世を去った農夫の父親の言葉を信じて、子どもたちは農地を深く掘り起こし続けます。しかし、宝物は見つからないのです。そのかわり、よく耕された農地からは翌年豊かな収穫が得られる結果となり、農夫は死に際して子供たちに労働することこそが宝であることを教えようとしたのだ、という寓話です。

ここでの労働を学習におきかえ、自分の中にある潜在的な能力を「秘められた宝」にたとえ、それを掘り起こす学習というプロセスこそが大事であるとのメッセージが表題に込められていると言われています。

これまでの人生で教育の機会はあまりにも当たり前にあったので、それをあえて把握するような努力は、通例、しないでしょう。しかし、大学に入学するにあたり、自身で受けてきた教育や学習を冷静に振り返り、十分なところや不十分なところを自覚し、大学生生活に臨むことは大事な作業となります。課題(1)は、そのために設けられた問いです。幼稚園から高校までの教育は様々な「柱」から成り立っていることでしょう。あなた自身の「現在」を形づくっている太い「柱」や細い「柱」、頑強な「柱」や脆弱な「柱」を認識することによって、新たな学びのよりよいスタートに備えて下さい。

課題(2)を解くには、現代社会の趨勢を把握し、それに対して求められる学習観を描く必要があります。現代は情報化や市場化、グローバル化の中で、様々な持続不可能な状況が露呈している、と言われています。例えば、気候変動や世界同時不況、格差社会など、環境・経済・社会分野での危機が指摘されてきました。こうした状況下において、これからの平和で持続可能な社会を形成するためには、「4本柱」では事足りないという主張が近年、台頭するようになりました。

例えば、「持続可能な生活を送るための学習 (Learning to live a sustainable life)」です。上記のような危機的状況を乗り越えるには、私たち自身が持続可能な生活を営む必要があり、そのための価値観やライフスタイルを習得するための学習です。

また、「自身を変容させ、社会を変容させるための学び」(Learning to transform oneself and society)」です。これは難しく思われるかもしれませんが、社会をより善い方へ変えていくには、まずは自らの行動を変えていく第一歩が重要であるとする見解です。「平等」や「自由」などの標語を唱えるだけで、自分が変わらない人が多いと、結局、社会全体も変わらないという主張の裏返し表現でもあります。

その他、「他者と共に学ぶことを学ぶための学習」(Learning to learn with others)なども国際会議では挙げられています。異質な他者(例えば、自分とは異なる文化や宗教をもつ他者)と共存することが求められるグローバル化した社会において、そうした異質な者どうしが共に学びを共有し、共生社会を構築していくための基盤を形成していくための学習です。

その他、きりがいいかもしれませんが、皆さんも現代社会のあらゆる問題を想い描いてみて、グローバル化時代に相応しい学習概念を描いてみて下さい。